

たつの市鶏籠山の照葉樹林の保全に向けて

兵庫県たつの市の鶏籠山には自然性の高い照葉樹林がまとまった面積で分布しています。この樹林は兵庫県版レッドデータブック（植物群落）のBランクに指定されています。しかし、鶏籠山にはニホンジカ（以下、シカ）が数多く生息しています。近年、国内の多くの地域でシカの採食による森林の衰退が大きな問題となっています。私達は鶏籠山の照葉樹林に対するシカの影響について調査し、シカの採食圧の増大が林床の裸地化、種組成の単純化、種多様性の低下を引き起こしていることを明らかにしました。そして、この調査結果を、鶏籠山の国有林を管理している林野庁に伝えました。その結果、鶏籠山の照葉樹林の保全に向けた取り組みを林野庁と連携して進めることになりました。これまでの活動内容は下記のとおりです。

防鹿柵の設置

2011年10月に15m×15mの防鹿柵10個を照葉樹林内に設置しました。また、それぞれの柵において、林内の光環境を改善するための樹木の伐採を行いました。1個の柵では樹木の皆伐を実施し、残り9個の柵では林冠木の間伐（間伐率は20-35%）を行いました。さらに、鶏籠山での保全活動を紹介するための解説板を林内に設置しました。これらの取り組みは林野庁の事業として実施されました。

追跡調査

柵の設置と樹木の伐採処理が照葉樹林に与える影響を明らかにするために、柵内の植生を対象とした追跡調査を実施することにしました。2012年度に最初の調査を実施し、2015年度まで毎年継続しています。調査の結果、柵の設置と林冠木の間伐は照葉樹林構成種数の増加に寄与していることが明らかとなりました。シカによる柵の破壊を防ぐことができれば、照葉樹林構成種数はさらに増加していくと推察されます。追跡調査は2016年度以降も続ける予定です。



シカの採食で林床が裸地化した照葉樹林



照葉樹林内に設置された防鹿柵



皆伐後に成立した植生



保全活動を紹介するための解説板



シカによる防鹿柵の破壊



たつの市鶏籠山照葉樹林保全プロジェクト

代表者：石田弘明

分担者：黒田有寿茂

財源：林野庁予算、研究部研究費